

## 前立腺癌密封小線源永久挿入療法の 初期経験

しげ 滋	の 野	かず 和	し <sup>1)</sup> 志	す 洲	むら 村	まさ 正	ひろ <sup>1)</sup> 裕	よね 米	だ 田	たつ 達	あき <sup>1)</sup> 明
しい 椎	な 名	ひろ 浩	あき <sup>1)</sup> 昭	い 井	がわ 川	みき 幹	お <sup>1)</sup> 夫	よこ 横	かわ 川	まさ 正	き <sup>2)</sup> 樹
の 能	たに 谷	まさ 雅	ふみ <sup>2)</sup> 文	かわ 川	ぐち 口	あつ 篤	や <sup>2)</sup> 哉	うち 内	だ 田	のぶ 伸	え <sup>2)</sup> 恵
きた 北	がき 垣		はじめ — <sup>2)</sup>	みや 宮	はら 原	よし 善	のり <sup>3)</sup> 徳				

### 要 旨

早期前立腺癌に対する根治治療法の1つである密封小線源永久挿入療法（小線源療法）は欧米では15年以上の治療実績があり，その長期成績は前立腺全摘術に匹敵することが報告されている。また，その安全性が高いことから世界的に増加傾向にある治療法である。本邦では2003年9月よりヨウ素125線源を用いた小線源療法が可能となり，当院でも2005年10月より山陰で初めて本療法を導入した。2006年7月までの期間に小線源療法を36例に施行したが，全例で適切な線量分布が得られ，重篤な合併症も無く順調に経過している。

### 緒 言

従来，前立腺癌の発生頻度は欧米人で高くアジア人では低いとされてきたが，我が国においても食生活の変化や前立腺特異抗原（prostate specific antigen: PSA）検査の普及などにより，患者数，中でも早期癌の患者数が急増している。早期前立腺癌の治療法としては根治的前立腺全摘除術がこれまで第1選択であったが，尿失禁・勃起障害などの合併症を生じる場合もあり，さらに侵

襲度の低い治療を望む患者が増加し，放射線療法の役割が注目されている。

前立腺癌に対するヨウ素125線源の永久挿入療法は1972年に Whitmore らが報告した開腹による治療手技が最初であるが<sup>1)</sup>，線源を目的とする位置に正確に留置することが困難であったため線量分布は不良となり，期待通りの治療効果は得られなかった。その後，デンマークの Holm らにより経直腸的超音波（transrectal ultrasonography: TRUS）ガイド下に行う経会陰的線源留置法が報告された<sup>2)</sup>。米国ではこの線源留置法を用いて Ragde らが優れた治療成績を示し<sup>3)</sup>，1990年代後半には米国において，限局性前立腺癌の有効な治療法として定着するに至った。10年以上の良好な

Kazushi SHIGENO et al.

1) 島根大学医学部泌尿器科 2) 同放射線科

3) 同附属病院中央放射線部

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1